

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	放送映画リテラシーE1 (映像メディア概論)	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書/教材は特に使用しない 資料については授業内に適時配布				
担当教員情報					
担当教員	長濱和久	実務経験の有無・職種	有 映像ディレクター/プロデューサー		
学習目的					
ネットを中心とした新たな映像メディアの台頭により過渡期を迎えている業界の現状を各メディアの成り立ちや特性を学ぶ事で理解し卒業後のビジョンを明確化する事を目的とする。					
到達目標					
映像メディア業界の現状に対する理解からテレビ・映像メディアの将来を予測し“考察力”“分析力”の向上を図る。					
教育方法等					
授業概要	授業の前半では業界時事問題を取り上げ最新の業界動向や問題点を明らかにすると共に後半では映像メディアがビジネスとして成り立つ仕組みを媒体ごとに解説。学生の理解度を確認する為に授業内レポートを実施。これらを授業内でフィードバックする事で他者の考えを知る機会を与え自らの考えを導き出す。				
注意点	授業内で取り上げる現状やデータを自ら分析する事で自分自身の考えとして確立する事を求める。授業内での積極的な発言については平常点に加算する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・論文	60%	試験と論文を総合的に評価する		
	レポート①	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート②	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度、出席状況を総合的に評価する		
授業計画 (1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	テレビは死んでしまうのか?	データからテレビ現状を理解。映像メディアの発展構造から将来について考える。			
2回	映像で情報を伝える①	サイレント映画の試写から“映像”のチカラを理解する			
3回	映像で情報を伝える②	落語番組の試写から“言葉”が持つチカラを理解する			
4回	映像で情報を伝える③	映像がメディアとなった時に何が起きたか?プロパガンダについて理解する			
5回	授業内レポート①	映像で情報を伝える事について各自の考えを試写した作品の感想をもとに述べる			
6回	映像メディアが成り立つ仕組み①	映像メディアがビジネスとして成り立つ仕組みを理解する			
7回	映像メディアが成り立つ仕組み②	テレビCMについて理解する			
8回	映像メディアが成り立つ仕組み③	有料多チャンネルビジネスについて理解する			
9回	映像メディアが成り立つ仕組み④	映像配信サービスの現状とビジネスについて理解する			
10回	映像メディアが成り立つ仕組み⑤	映画業界の現状を理解する			
11回	テレビの未来を考えるヒント①	地上波IPサイマル放送の現状と問題点を理解する			
12回	テレビの未来を考えるヒント②	欧米諸国のテレビ業界の現状を理解する			
13回	授業内レポート②	テレビの10年後を予想する			
14回	模擬試験①	学生の理解度を確認し問題点を明らかにする			
15回	模擬試験②	学生の理解度を再確認する。			